

令和3年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	解剖学 I (骨)	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	河元 岩男	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 解剖学を学ぶ意義・目的を理解できる。 2. 人体の概観を説明できる。 3. 体表解剖、目印、基準線を説明できる。 4. 骨の構造と機能について説明できる。 5. 体幹、上肢、下肢の骨の名称・構造・機能について説明できる。			評価方法			
授業概要	解剖学を学ぶ意義・目的を考え、人体構造を把握したうえで、全身の骨の名称、構造、機能を骨模型・体表解剖・模写などの手法を用いて理解する。			期末試験 60% 小テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論	使用器材	人体骨格模型、ビデオ				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	解剖学総論 解剖学とは、学ぶ意義・目的、分類、手法						
第2週	人体の概観、体表解剖・目印・基準線、骨の構造と機能、骨の連結						
第3週	上肢の骨 上肢概観、上肢帯の骨(肩甲骨、鎖骨、胸骨)						
第4週	小テスト1(総論～上肢帯の骨) 授業アンケート1						
第5週	上腕骨、橈骨と尺骨						
第6週	橈骨と尺骨、手根、手指						
第7週	小テスト2(上肢帯、上腕骨、橈骨と尺骨、手根骨と手指) 授業アンケート2						
第8週	下肢概観、下肢帯(腸骨・恥骨・坐骨)* 骨盤						
第9週	大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨						
第10週	小テスト3(下肢帯、大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨) 授業アンケート3						
第11週	脛骨、腓骨、足根骨、足指						
第12週	小テスト4(下肢帯、大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨、足根骨、足指) 授業アンケート4						
第13週	体幹の骨格、椎骨、脊柱の構造、頸椎						
第14週	胸椎、腰椎、仙骨、骨盤						
第15週	小テスト5(頸椎、胸椎、腰椎、仙骨、骨盤) まとめ 授業アンケート5						
授業外 学習指示等	授業進行に沿い、模写を繰り返し、バランス良く、見ないでもできるようになりましょう。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	解剖学Ⅱ(筋)	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	河元 岩男	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 骨格筋の概観を把握でき、骨格筋の形状の分類ができる。 2. 骨格筋の構造と機能が理解できる。 3. 腱および筋の補助装置が理解できる。 4. 上下肢・体幹の筋を模写できる。 5. 上下肢・体幹の筋の起始・停止・作用が言える。 6. 主要な筋の神経支配が言える。			評価方法			
授業概要	人体構造を把握したうえで、筋の構造と機能、筋の分類と形状、全身の筋の名称、起始・停止、作用、神経支配を筋模型・体表解剖・模写などの手法を用いて学ぶ。			期末試験 60% 小テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論	使用器材	人体骨格模型、筋模型、ビデオ				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	骨格筋の概観、骨格筋の形状の分類						
第2週	骨格筋の構造と機能、腱および筋の補助装置						
第3週	上肢帯の筋						
第4週	小テスト、前回までのまとめ、授業アンケート						
第5週	前腕の筋、手の筋1						
第6週	前腕の筋、手の筋2						
第7週	小テスト、前回までのまとめ、授業アンケート						
第8週	下肢の筋、骨盤と殿部の筋						
第9週	大腿の筋						
第10週	小テスト、前回までのまとめ、授業アンケート						
第11週	下腿と足部の筋1						
第12週	下腿と足部の筋2						
第13週	小テスト、前回までのまとめ、授業アンケート						
第14週	体幹の主要な筋						
第15週	まとめ 授業アンケート						
授業外 学習指示等	授業進行に沿い、模写を繰り返し、バランス良く、見ないでもできるようになりましょう。主要な筋は英語名もいえるようになりましょう。						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	社会福祉学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担 当	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	社会福祉の考え方や歴史、対象者別の福祉や地域福祉などを図解や実例で学ぶ。			評価方法			
授業概要	理学療法士や作業療法士などに必須の社会福祉を協働の視点で学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	コメディカルのための社会福祉概論	使用器材	適時プリントを配布				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	オリエンテーション、社会福祉の意味						
第2週	日本の社会福祉の歴史						
第3週	社会保障制度と社会福祉を展開する組織						
第4週	子ども福祉・少子化対策						
第5週	障害者福祉の考え方						
第6週	高齢者福祉・高齢者を取り巻く状況						
第7週	介護保険制度と専門職の役割:チームアプローチの必要性						
第8週	所得者福祉・貧困とは						
第9週	地域福祉とその推進方法						
第10週	医療福祉について						
第11週	精神保健福祉・精神障害者とは						
第12週	社会福祉施設の役割						
第13週	社会福祉を担う人々・社会福祉専門職のおもな職種と業務内容						
第14週	社会福祉における相談援助の目的と対象						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	予習として教科書を読み、分からない専門用語をノートに書きだして調べておくこと。						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	理学療法概論 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	約18年の病院等での実務経験有り	担当	西山 栄一	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 理学療法の概要を理解する。 2 仕事の理解と内容を把握する。			評価方法			
授業概要	理学療法士としての理解を深め、実務について理解させる。			期末試験 60% 小テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法テキスト	使用器材	PC(パワーポイント・配布資料)				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	オリエンテーション・理学療法概論とは						
第2週	理学療法の定義と歴史						
第3週	障害の概念、ICIDHとICF						
第4週	小テスト1(前回までのまとめ)、授業アンケート						
第5週	関連法律						
第6週	理学療法士の役割、倫理、診療ガイドライン I						
第7週	診療ガイドライン II						
第8週	小テスト2(前回までのまとめ)、授業アンケート						
第9週	理学療法の流れ(処方・評価等)						
第10週	クリニカルパスとは						
第11週	コミュニケーション						
第12週	小テスト3(前回までのまとめ)、授業アンケート						
第13週	理学療法士の働く現場						
第14週	理学療法の基本用語						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。授業中に全ての範囲を網羅することは困難ですので、復習をかねて授業を行った範囲については教科書を読むようにして下さい。						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	心 理 学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	チーム医療、メンタルサポート介入経験有り	担 当	松本 和代	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	基本的な心理学について学ぶ			評価方法			
授業概要	基礎心理学を一通り学習し、国家試験に出題している項目については、詳細に学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	グラフィック心理学	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	オリエンテーション						
第2週	心理学とは 心理学の歴史						
第3週	知覚						
第4週	記憶						
第5週	学習						
第6週	思考						
第7週	感情・動機付け						
第8週	パーソナリティ その1						
第9週	パーソナリティ その2						
第10週	パーソナリティ その3						
第11週	発達 その1						
第12週	発達 その2						
第13週	リハビリテーション心理学						
第14週	試験対策						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	コミュニケーション学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	前原 絢子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	グループ学習を含め、コミュニケーションとは何かを学習していく			評価方法			
授業概要	自己の成長を最大のテーマとし、医療職としてのコミュニケーション力は多様化する患者のニーズに応えるために必要不可欠であり、「どんな相手でもOKのプロを目指す」社会人のマナーをはじめ、コミュニケーションスキルを身に付ける。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	オリエンテーション						
第2週	理学療法士を目指すあなたへ：養成教育は異文化教育						
第3週	心身ともに健康な医療従事者になるには						
第4週	自分を知る：性格と傾向及び態度						
第5週	見る力・聞く力・伝える力 ①						
第6週	見る力・聞く力・伝える力 ②						
第7週	見る力・聞く力・伝える力 ③						
第8週	自立した自分に：自己管理・自己実現・就職活動 ①						
第9週	自立した自分に：自己管理・自己実現・就職活動 ②						
第10週	社会人のマナーとしてのコミュニケーション ①						
第11週	社会人のマナーとしてのコミュニケーション ②						
第12週	臨床で役立つコミュニケーションスキル：対話・ラポール						
第13週	臨床で役立つコミュニケーションスキル：質問のしかた						
第14週	臨床で役立つコミュニケーションスキル：対応のしかた						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	解剖学Ⅲ(感覚・神経)	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院・施設で患者疾患治療13年経験	担当	松本 和代	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	人体構成の基礎となる用語を学び、理学療法士になるための基礎医学の知識を修得する。			評価方法			
授業概要	人体、特に神経系・感覚器系の形態・機能・構造の概要の教育、理学療法士として理解が必要であると考えられる事項の教育。成績評価は授業ごとの要点をまとめた前回授業範囲の小テストと期末テストの総合により評価する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	プロメテウス ビジュアルテキスト	使用器材	人体骨格・脳・神経・血管模型				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	神経系総論 : 神経系の分類・ニューロン						
第2週	脊髄・脊髄神経の構造機能 1						
第3週	脊髄・脊髄神経の構造機能 2						
第4週	脊髄・脊髄神経の構造機能 3						
第5週	脳 : 大脳・間脳						
第6週	脳 : 硬膜・くも膜・軟膜・硬膜静脈洞・小脳テント						
第7週	脳 : 脳室・脈絡組織・脈絡叢						
第8週	脳 : 大脳皮質機能局在・錐体路						
第9週	脳神経の構造と機能						
第10週	脊髄神経の構造と機能						
第11週	運動の伝導路(錐体路・錐体外路)						
第12週	感覚の伝導路						
第13週	自律神経系						
第14週	頸・腕神経叢 腰・仙骨神経叢						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。学習内容はノートでまとめ、週間ごとに提出とする。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	医学英語	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	医学英語に特有の語彙や表現に慣れ、国際的な学術雑誌やデータベースに掲載されている医学用語の内容を正確に、かつ効率的に理解できる力を身に付ける。			評価方法			
授業概要	臨床で用いる医学用語の基礎と実際を学ぶ。			期末試験 80% 小テスト 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	リハビリテーションの基礎英語	使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	医学英語 総論						
第2週	運動と身体						
第3週	リハビリテーション						
第4週	人体の基礎知識						
第5週	関節可動域						
第6週	骨格系・骨						
第7週	関節						
第8週	上肢筋						
第9週	下肢筋						
第10週	神経						
第11週	疾患別リハビリテーション 骨折・慢性腰痛						
第12週	疾患別リハビリテーション 関節炎・スポーツ障害・脊髄損傷						
第13週	疾患別リハビリテーション パーキンソン病・脳卒中						
第14週	疾患別リハビリテーション 慢性閉塞性肺疾患・嚥下障害						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	リハビリテーション概論 I (多職種連携含む)	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院・介護ステーション勤務歴約9年	担当	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	リハビリテーションを正しく理解する。正しい知識をもって、リハビリテーション医療の対象や現状、各専門職の役割について知る。			評価方法			
授業概要	リハビリテーションの理念、目的を理解した上で、リハビリテーション医療の流れ、リハビリテーションの組織を学ぶ。さらに、他職種連携について学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	医学生・コメディカルのための 手引書 リハビリテーション概論	使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	リハビリテーション概論 総論						
第2週	リハビリテーションの概念・理念・定義						
第3週	健康と障害の理念と分類						
第4週	国際障害分類(ICIDH)						
第5週	国際生活機能分類(ICF)						
第6週	廃用症候群						
第7週	リハビリテーション過程						
第8週	リハビリテーションの諸段階						
第9週	医療とリハビリテーション専門職種と役割 理学療法士						
第10週	医療とリハビリテーション専門職種と役割 作業療法士						
第11週	医療とリハビリテーション専門職種と役割 言語聴覚士						
第12週	医療・リハビリテーション医療－医療機関で行うリハビリテーション治療と義肢・装具－						
第13週	高齢者・健康対策と少子化対策						
第14週	医療・福祉制度、医療法・福祉関係法規						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	生理学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	小倉 信作	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	各臓器における構造と機能を理解し、生理学の知識を応用して理学療法の評価及び治療を展開する力を養う事を目標とする。			評価方法			
授業概要	人体の各器官の正常生理機能を理解する。理学療法にとって重要な器官に関しては詳細にかつ病態について学習する。また、国家試験過去問を授業資料として入れていく。			期末試験 80% 提出物 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	医学書院 標準PTOT 生理学	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	生命現象と人体						
第2週	細胞の構造と機能						
第3週	神経の興奮伝導と末梢神経						
第4週	中枢神経系						
第5週	中枢神経系						
第6週	筋と骨						
第7週	筋と骨						
第8週	感覚						
第9週	感覚						
第10週	血液						
第11週	血液						
第12週	尿の生成と排泄						
第13週	尿の生成と排泄						
第14週	酸塩基平衡						
第15週	試験対策 まとめ						
授業外 学習指示等	授業中に提示される学習課題をノートにまとめる。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	保健科学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	小倉 信作	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	学習課題を協同学習法で解決することによって、理解力と協調性を醸成する。			評価方法			
授業概要	生理学 I の補完授業とし、学習課題を協同学習法を使って解決する			期末試験 80% 提出物 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	配布資料	使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	生命現象と人体 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第2週	細胞の構造と機能 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第3週	神経の興奮伝導と末梢神経 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第4週	中枢神経系 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第5週	中枢神経系 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第6週	筋と骨 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第7週	筋と骨 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第8週	感覚 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第9週	感覚 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第10週	血液 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第11週	血液 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第12週	尿の生成と排泄 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第13週	尿の生成と排泄 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第14週	酸塩基平衡 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第15週	学習課題のプレゼンテーション						
授業外 学習指示等	授業中に提示される学習課題をノートにまとめる。						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	人間発達学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	松本 和代	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 人間の成長課程における、発達状況の特徴を述べることができる。 2 発達段階における変化に対応するために基礎的知識の概要を習得する。			評価方法			
授業概要	人間は生涯発達する存在として捉え、生命の誕生から死に至るまでの量的、質的变化を学び、各発達段階に生じやすい発達上・健康上の問題と急速に変化した日本の社会問題への対応、解決策をも同時に学習する。			期末試験 90 提出物 10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	コメディカルのための専門基礎分野 テキスト 人間発達学	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	人間発達学概論(発達とは、発達理論)						
第2週	生命の誕生(出生前・後) 乳児期①(身体的発達) 原始反射・姿勢反射①						
第3週	原始反射・姿勢反射②						
第4週	原始反射・姿勢反射③ 乳児期②(運動的発達 その1)						
第5週	乳児期③(運動的発達 その2)						
第6週	乳児期④(運動的発達 その3、認知的発達)						
第7週	乳児期⑤(情緒・社会的発達)						
第8週	幼児期①(身体的発達、運動的発達)						
第9週	幼児期②(認知的発達、情緒・社会的発達)						
第10週	学童期						
第11週	青年期						
第12週	成人期①						
第13週	成人期②						
第14週	高齢期 死、そして受容						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	学習課題をノートにまとめる						